

ジムの裏で、佐久間が所属する、八王子F.S.G.のインストラクター（F.S.G.は、J.R.西八手から歩み、リンクもあり、影響も受けつつあり）
●文／松井孝夫
●写真／板井 浩

苦しい と嘆息は、

立嶋篤史を狙う、
新星にインタビュアー

叫んでます

「自分のなかでは、遅いですよ。チャンスをもたらしたときに勝ってあげれば、もっと早くこうなっていたでしょうね」
3月23日、東京・後楽園ホールで立嶋篤史と闘うことになった、佐久間晋哉は、臆することなくアツサリと話す。外見は、渋谷で見かけそうな若者。

鼻筋もストと通っていて、左の耳にはピアスまで刺さっている。
「ハイキックでKOするのは、カッコイイじゃないですか？ 俺は、いつでも狙っていますよ、ハイを」
今までは、あまり自立たなかった佐久間だが、じつはプロの意識が高い。

どちらかというと、言葉に高揚がなく、静かに話すのが、それがかえって私の強さを感じるのである。
キックは20歳の頃から初めて、現在は25歳、1993年6月20日にデビュー。戦績は、これまで13戦7勝（6KO）5敗1分とKO率が高く、早くか

ら期待されていたが、1995年2月26日、杉本成臣にKO負けを喫し、1年間、空白の期間があった。
これに関して、佐久間が所属している八王子F.S.G.の小林秀次館長は、「あいつがタイへ渡り、帰ってきたら、変な技術ばかりを身に付けてきてしま

って。1年間、試合をやらせなかったんでしょ」と振り返る。
キックボクサーがムエタイを学びに行く、彼らの技に影響されすぎて、本来の持ち味を見失うことがある。

「最初の頃は、スタミナに自信がなかったんで、早い回で倒そうと思ってたんでしょ」と、倒されてからはIRから「試合を」組み立てていかないと、マズイなと思うようになって。それでなんかこう、ガンガンいなくなりました。おっかなびっくりやっていたんでしょね」
今でも佐久間は、必要以上に相手を見過ぎるクセが抜けていないという。

「終わったから言えるんですけど、この前の試合だって、もうちょい早く、モーションをかけたんだし、やらないかと思ってるよ」
この前の試合とは、昨年12月22日、メイン・イベントで日本キック協会の大柴ひろしをKOで下したフアイトのことである。

この試合で佐久間は、左ミドルキックで大柴の右腕をへし折っている。本人はパンチでダウンさせたと思っていたが、無意識に左の足が上がっていたということだ。
パンチで追い込み、最後は蹴りでKO。腕のブロックを破壊させたオマケまでつき、完璧な試合内容と絶賛されたが、内容には満足していない。

「ビデオを見てもそうですし、試合をやっているからでも、ここでいけるな、とか思っています。この状況なら、立嶋ならこう、こうされて、やられちゃうな」と。
よく選手は、「次の試合のことしか頭にない」と口にすることが多い。その先のことまで考えられないのが、普通だろう。だが佐久間は、昔からもっと上を見ていたのである。
「みんなそうじゃないんですか？ 俺は、もうちょい強いヤツだったから、こ

こで（攻めて）きているだろうって思っているから、闘ってますけど……」
だから立嶋戦が決まったときは、「嬉しかったですね。勝算とか、そういうのを抜きに嬉しかった。小野寺（力）とかは、（立嶋と）やりたいと言っておきながら、やれないじゃないですか。俺がやっていたのと同じか、正直、思いましたよ（苦笑）」と素直に喜ぶ。
「本当はね、こなす試合と思いたいんですけどね。やっぱり、特別なんで、他の選手を知らないヤツでも、立嶋のことは知ってますからね。カッコイイ言い方をすれば、それは認めたくない



○佐久間に期待をかける、八王子F.S.G.の小林秀次館長（左）、佐久間（右）
「佐久間、こなす試合と思ってるよ。立嶋、こなす試合と思ってるよ。立嶋、こなす試合と思ってるよ。立嶋、こなす試合と思ってるよ。」

大柴ひろしの腕をへし折った 鋼鉄の左足が立嶋に通じるか!?



フスポーの佐久間は、左ミドルキックで大柴の右腕をへし折った。KO率は、7勝のうち6KOと高い

んでしょ」と、謙虚に語る佐久間だが、小野寺のことも常に意識しているという。
「大柴戦も3回までに倒せばって、思ってたんだね（小野寺は、大柴と闘い4RにKOしている）。それに小野寺は、テレビで主役級の扱いをされているじゃないですか。強いとは思いますが、立嶋の方が強いと思ってますからね。BMWに乗っているんですけど、俺はオンボロのレヴィンですから。しかも、今は免許中なんです（笑）」
冗談で笑わせながらも、小野寺へのライバル心がヒシヒシと伝わってくる。同階級の選手ならば当然のことではあるが、佐久間がトップ戦線に加わってくれば、またフェザー級は面白くなる。かい摘んで佐久間の言葉を載せると、読者の方には、彼がとて強気の選手に写っていることだろう。

だが、精神的に弱い一面も持っている。佐久間は幼少の頃、ガキ大将として威張っていたが、中学、高校と年をとるにつれ、強気の姿勢も崩れてしまったそうだが、
「自分が強いと思っていたら、もっと強いヤツがでてきた。それで、（喧嘩に）負けたりして、強いヤツから目をそらすようになっていった。キックを始めてからも、さらに弱い自分に気が付いてきました。今まで、そんなに苦しい思いをしてこなかったから、練習をしていても投げ出したくなったり」
キックのリンクは、人間を丸裸にする。どんなに虚勢を張っていても、追い込まれば、降りるか意地を貫くか、二つに一つの選択を迫られるのだ。
佐久間は、そんなときの弱い自分を知っている。負けた試合は、全てその弱さが出たときなのだそうだが、しかし、空白の1年間があったあと、大声を出すことによって、弱い自分を消せることに気が付いた。
「苦しいときは、立嶋！って叫んでます。そうすると、苦しい練習でもガマンできるんですよ」
それに加え、両親が会場へ足を運んだ時は無様な試合を見せられないと、目に見えない力が出たとも語っている。
立嶋戦は、ご両親を始め、たくさん友人が新潟の田舎からやってくるそうだが、おそらく、佐久間はこれまで以上の力が発揮されることと思う。

「勝負は十分にあるけど、まだ難しいかも……」と予想する関係者の声があるなか、佐久間は、「逆に俺には失うものがないから」と笑い飛ばした。
けれども、半分笑ったから、俺にチャンスが回ってきたと思う人がいるでしょう。それが「一番イヤです」と、一瞬だけ、鋭い目付きで睨んできた。
運命の悪戯は、反逆心から生まれることが多い。その意味でも佐久間にかける期待は、大きい。
P R O F E S S I O N A L
佐久間晋哉（さくま しんご）1971年6月28日生まれ。25歳。新潟県出身。身長174cm、61kg。13戦7勝（6KO）5敗1分。全日本フェザー級3位。八王子F.S.G.所属